

## 永井靖彦ガバナー公式訪問卓話「ロータリーの歴史と運動 その発展」

今年度、グレンE. エステス・シニアRI会長は100年にわたるロータリーの歴史が親睦と奉仕にあり、この理念を根底に置くことによって、ロータリーの可能性に対する認識を高め、新しい挑戦事項に取り組み、奉仕の第2世紀目に入る「ロータリーを祝おう」と提言しております。ロータリーが奉仕するという一世紀にわたる成長と拡大、そして過去の成長の自己満足ではなく、新たな危機感を持って原点に立ち返り、第1歩を踏み出す、そのことを祝おうと述べております。2004 - 2005年度に創立100周年を迎えるにあたり、ロータリーがどのような変遷をたどってきたのか骨格のところだけを検証してみたいと思います。

ポール・ハリスという一人の弁護士が99年前の1905年に仕事上の知己を三人呼び集めて第一回の会合をしました。彼らは互いに集まり、取引をしあい、友情と信頼関係を築けるようなクラブを充足することを決意しました。第三回目の会合は、ポール・ハリス、シルベスター・シール、ハリーラグルス等15名が出席しました。この会合での最初の議題は、この集まりの名称をどうするか、ということだった。提案には事欠かなかったがなかなかまとまらず、最後に「ロータリークラブ」はどうか？とポール・ハリスが提案し、この名前が全会一致で可決された。この会合では理事会が選任され、ポール・ハリスはシルベスター・シールをシカゴロータリークラブの初代会長に推薦した。ポール・ハリスはこの会の最初の定款、細則を創案し、1906年に採択された。この中に書かれているロータリーの綱領は二つだけである

1. 本クラブ会員の事業場の利益の増大
2. 通常社交クラブに付随する親睦およびその他の特に必要と思われる事項の推薦

しかしクラブがより高度な利他的な目標を目指すよう希望する会員もいた。1906年5月にシカゴロータリークラブに入会したドナルド・カーターであります。彼は「利己的なことのみで動いている組織は必ず潰れます。もしもロータリークラブが将来発展してこうと望むならば、その存在を正当化する必要があります」と言ったのです。ちょうど、シカゴクラブの物質的相互扶助が世間からの非難も浴びていた矢先であり、ポール・ハリス自身も、方針の転換を考えていた時期だったので、カーターの意見を取り入れることになった。ドナルド・カーターは1907年にクラブ細則の改定案を提出し、そして第三の綱領を創案しました。

3. シカゴ市の最大の利益を推進し、シカゴ市民としての誇りと忠誠心を市民の間に広める。

これがロータリー史上における大転換期となった。「社会奉仕の父」として知られるようになったドナルド・カーターを牽引力として、社会奉仕の理想を受け入れた。1907年にポール・ハリスがシカゴクラブの会長になったとき、クラブの方針を転換して会員増強、拡大、地域社会に対する奉仕を重点項目にしました。その手始めとしてやった事業が公衆便所の設置運動です。まもなく公衆便所を建て、恵まれない子供達を助け、貧民街の住民に食べ物の詰まったバスケットを届けるようになった。シカゴロータリークラブは3年間で会員数を200名に増やした。1908年に2番目のロータリークラブが誕生した。サンフランシスコクラブである。1908年のときに、アーサー・F・シエルドンがシカゴロータリークラブに入会します。彼はミシガン大学の経済学部で販売学、特にサービス学を専攻し、その考え方を実業家に教えるために1902年にビジネススクールを開設しておりました。サービ

ス学(奉仕哲学)はまさしく彼のオリジナルな発想であり、それを表す言葉が、今私達が使っている He most who serves です。もっとも、彼が1910年に最初にロータリーで発表したときには、He profits most who serves his fellows best と、his fellows という言葉が余分に入っています。

各都市でロータリークラブの結成が拡大し、全米のクラブは全国大会を開催し、そこで連合会の目標や、規範について討議し、1910年8月15日に全米ロータリークラブ連合会がシカゴにおいて結成された。まもなくロータリーは世界各地に広まり、クラブが次々と結成されていった。志を同じくするクラブが各地に生まれ、国境を越えて、今では世界166カ国(2004年6月現在)の地域に広がり、クラブ数は31,603、会員総数 1,211,723人(2004年6月30日RI公式発表)に達しています。この組織が地球の隅々まで拡大するにつれてロータリーは世界に目を開いて幅広い奉仕活動を求められるようになり、現在も多方面にわたって多大な貢献をしています。

99年前にロータリーと呼ばれる河が生まれ、その源泉はひそやかであり、小さな泉の湧き水やわずかな雪解け水に始まります。このわずかな水の流れが野山を下るうち、触れるものすべてに新たな生命を与える。そのうち小川がいくつも合流して一つの川になり、より確かで、力強い流れとなる。ロータリーの河は広く深く流れる。誰もこの流れがどこまで続くかは知らないが、この水を眺める人々は皆、その源泉を誇ることが出来ます。それは創立者ポール・ハリスであります。1947年1月27日、長年の闘病生活の後、衰弱した78歳のポール・ハリスは彼の愛したシカゴ南部の故郷カムリー・バンクで安らかに息を引き取った。そのとき、彼には妻、弟、多くの友人、そして世界6000クラブのロータリアンが残された。

ひるがえって1910年結成された全米ロータリークラブ連合会の設立と第一期の役員が選出され、ポール・ハリスが会長に指名された。そして連合会の運営を担当する事務装置用にチェスリー R . ペリーが推薦され、以来32年間勤めた。ちなみに、当時のシカゴクラブ会員は、親睦と事業の発展を望んで入会した人たちが殆どでした。その中でポール・ハリスやシエルドンが突然、奉仕理念や拡大を唱え始めたので、シカゴクラブは大荒れに荒れます。ハリー・ラグルスを中心とした親睦派は会員同士の親睦と事業の発展こそがクラブ・ライフの全てだと主張しますし、ポール・ハリスやアーサー・シエルドンなどの奉仕派も一歩も引こうとはしません。シカゴクラブの例会は、両派の論争の場と化し、最終的にはポール・ハリスは任期半ばで会長を辞し、シエルドンも情報拡大委員長を更迭されるという事態にまで発展します。これを憂慮したチェスリー R . ペリーが奉仕理念の提唱とか拡大は、この連合会でいい、クラブでは親睦を保つという役割を分担することで、この騒動の幕を閉じることが出来た。1910年全米ロータリークラブ連合会の晩餐会で、シカゴロータリークラブのアーサー・フレデリック・シエルドンがスピーチを行った。彼はこのスピーチの中程で「人は他人に利益をもたらすことこそが、正しい経営学であるということを理解するようになります。最もよく奉仕するものが最も多く報いられるということを理解するようになります」と語りかけた。1911年のミネアポリスロータリークラブの初代会長ベンジャミン・フランクリン・コリンズが提唱した“Service Not self”の思想があります。彼はロータリーの奉仕は self 即ち自分を Not 即ち否定して、犠牲にしてこの宇宙を支配する神の秩序体系のもとに帰依すること、これ即ち、ロータリーの Service 奉仕であると解いたのです。これはまさに中世キリスト教神学の思想以外の何物でもありません。優れた宗教的な標語で

あります。

1912年9月、ロータリーが国際組織へと成長したのを受けて「全米」という言葉が除かれた。連合会事務総長であったチェスリーR.ペリーはポール・ハリスと40年間にわたりロータリーの形成期に絡み合っていた。1960年2月21日にチェスリーR.ペリーが亡くなったとき、彼が入会時にたった一つだったロータリークラブは、彼が精魂を傾けて育てた組織は115カ国、10400クラブという規模に成長していた。現在120万人のロータリアンのほぼ全員が創立者の名前を知っております。しかしチェスリーR.ペリーの名前を聞いたことのある者、あるいはロータリーへの彼の貢献について聞いたことのある者は少ない。チェスリーR.ペリーがいなければ、今日のロータリーは無かったかもしれない。ポールは「もし私のことを国際ロータリーの設計者と呼んでいいとしたら、チェスリーR.ペリーも同じように国際ロータリーの建設者と呼んで間違いないでしょう」記しているのである。

1915 - 1915年度RI会長アレンD・アルバートは、ロータリークラブ国際連合会の定款と細則起草する委員会の委員長にアーチ・クランフを任命した。国際ロータリークラブ連合会の新しい定款で最も根本的な変更は、ロータリーを地区と呼ばれる10の地理的単位に分けたことにあった。これによって連合会の綱領を推進し、クラブを新設し、既存クラブの利益を増進し、それらを国際連合会理事会の一般的な監督の下で行うため「地区ガバナー」という新しい肩書きが創出された。99年度の今日も、地区ガバナーは国際ロータリー理事会と地域のロータリアンとの間のリンクとして機能している。

定款と細則は、連合会とクラブが守る規則と手続きを定めたが「ロータリーとは何か?」「ロータリアンは何を信じているのか?」という基本的な問いかけに答えるものではなかった。しかし、ロータリーは繰り返し組織自体の定義を微調整し、1951年にその最も重大な最後の綱領が下された。ロータリーには「有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成する」というただ一つの綱領があると決定されたのがこの時であった。この崇高な目的を固く前面に打ち出した後、ロータリアンが綱領を成就する4分野が説明された。第1 奉仕の機会として…… 第2 事業および専門職務の…… 第3 ロータリアンすべてが……

第4 奉仕の理想に結ばれた……

ロータリーは一人の孤独な男が三人の友人に提案したアイディアから、1915年にはすでに統一された定款、細則、綱領、倫理規定、今日のいわゆる四大奉仕部門の三つである、クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕という骨組みが出来ていた。創立後、わずか10年でロータリーの河は明確に、より広い地域を潤い始めていた。

現在のロータリー活動の特徴は、職業奉仕に関する活動が衰退し、弱者に涙するボランティア活動、すなわち社会奉仕や国際奉仕の活動が中心になってきています。1962年にはWCSが始まり、1978年から3Hプログラムが、1985年からポリオプラスが始まり、RI主導型の人道主義に基づく国際ボランティアが中心となって現在に至っています。